

# 芝川小だより

## 2月 第10号

さいたま市立芝川小学校  
令和8年1月30日  
TEL 048(644)7544



### 立春に思う 言葉の力

暦の上では春を迎えながらも、まだまだ冷たい空気が残る2月。校庭の木々のつぼみが少しずつふくらみ始め、子どもたちのまわりにも小さな春の気配が感じられるようになりました。そんな中、2月末の授業参観をはじめ、巣立ちの会、クラブ発表、金管バンド校内発表会など、1年間の学びや活動の成果を伝える行事に向けて、子どもたちは日々意欲的に準備を進めています。子どもたちの創意工夫が詰まったものになっていますので、ぜひ楽しみにしててください。

さて、2月3日は「節分」です。節分とは、本来「季節を分ける日」という意味があり、立春・立夏・立秋・立冬の前日にあたります。なかでも立春は一年の始まりとして大切にされ、現在では節分といえばこの日のことを指すようになりました。この日に行われる豆まきには、「鬼は外、福は内」と唱えながら豆をまくことで、災いや病気を遠ざけ、家族の健康を願うという意味がありますが、豆をまくだけでなく、まいた豆を「捨う」「食べる」ことで福を取り込むという意味があり、まく・捨う・食べるという一連の動きが大切なのだそうです。この話を聞いたときに、「捨って福を取り込む”って、大谷選手の考え方と似ているな。」と思い、改めて調べてみました。

大谷翔平選手は、言わずと知れた世界で活躍する二刀流メジャーリーガーです。その大谷選手が、試合中でも落ちている小さなごみに気づくと、さっと捨う習慣があることは、度々報じられている有名な話ではないでしょうか。

「人が落とした運を捨っているだけ」———そんな風に、高校時代の恩師の教えとして今も行動で続けていると紹介されています。大谷選手は、大勢が見ているスタジアムでも、誰もいない廊下でも変わらず同じようにゴミを拾います。自分で大切にすると決めたことを、15年以上も続けているのはすごいことだと、改めて尊敬の念を抱きました。ぜひ子どもたちにも、大谷選手のように“自分で決めたことを貫く強い気持ち”をもってもらいたい…と思いますが、なかなかハードルが高い気もします。

そこで、大きな力になるのが、周りの人たちの関わりではないでしょうか。「ありがとう」を伝える。「頑張ってたね」「見てたよ」と声を掛ける———励ます、褒めるとも通じると思いますが、それほど大袈裟でなくてもいいような気がします。私自身も、何気ない一言に「見てくれていたんだ」「気に掛けてくれていたんだ」と励まされ頑張れたことがたくさんあった気がします。子どもたちにはもちろんですが、周りの大人同士にも、そういった関わりを増やしていけたらと思います。

“立春”—— 一年のスタートです。改めて、どうぞよろしくお願ひします。

